

評価項目	担当	具体的項目	目標	具体的方策	評価基準	前期	後期	総合	成果と課題後期
学校の組織的経営力の充実と向上	教務部	学校運営の円滑化	各種行事等における早期着手と各分掌・学年との連携	教職員の仕事が円滑に進むよう教務の計画を事前に示す。	教務の計画を事前に示し、役割が明確に伝わる要項が提示できれば「3」 1ヶ月前に提示できれば「4」	4	4	B	①毎週の教務部会で直近3か月間の仕事分担表を提示するなどし、見直しを持って早めに業務に取りかかることができるように心掛けた。 ②物品がなくて困ったことはほとんどなかった。
		3年間を見通した教育活動の実践と校内研修の推進	生徒の進路目標や個の適正に応じた教育課程の研究・検証と 職員の研修の推進を図る	目標にあった特色ある教育課程を編成する。 校内研修の充実と積極的な参加を促す。	年間計画通り教育課程委員会を開催し、現行の教育課程の問題点の改善や検証ができれば「3」 年度当初に年間計画が示せれば「3」 計画の8割が実施でき、かつ各々の研修への参加者が8割以上であれば「4」	4	4		
		地域に根ざした学校づくりに努める。	広報活動を充実させ、地域や保護者との連携を図る。	「北松西高だより」の発行。	年8回発行すれば「3」（毎月発行すれば4）	4	4	B	①前期に引き続き北松西高だよりの毎月の発行やウェブサイトの月平均4.2回の更新を通じて、広報活動を充実させることができた。 ②研究授業の参観については、前期に引き続き保護者の方の参観が少なかつた。
				授業参観の実施。	ウイークスおよび公開授業を実施し、各々8名以上の参観者があれば「3」（12名以上の参加で4）	3	3		
学力の向上の充実	教務部	基礎学力の定着と徹底	基礎学力の徹底を図るとともに、学習のつまずきへの支援対策を講じる。	考査前の西高朝学タイムの充実。	円滑に実施できれば、「3」	3	3	B	①朝学タイムに関しては円滑に実施できたが、5分前着席完了が100%達成とはならなかった。 ②考査前補充指導に関しては、学年末考査前は学級閉鎖の影響もあり実施できなかった。来年度からの新日課では、放課後勤務時間内で指導をすることが困難になるので、指導形態・時間帯の再考が必要である。
				基礎学力の不十分な生徒への指導。	考査前の指導計画を立て、実施できれば、「3」	3	3		
小中高一貫教育の充実	教務部	小中高一貫教育の内容検証と改善	小中高一貫教育の研究・活動の充実を図り、その教育方針の達成を目指す。	小中高一貫教育に関する会議日を設定し、校種間の調整を図る。	毎月1度「小中高教務部会」を設定でき、各々の行事等が円滑に行えれば「3」	3	3	B	①引き続き毎月1回小中高教務主任会を開き、連絡・調整を行った。中学校の先生に特別指導を実施していただく際の連絡が不十分な点があった。 ②オープンスクールと入試説明会は予定通りに実施し、オープンスクールにおける中学生や保護者アンケート結果は良好であった。
				オープンスクールや入試説明会を実施する。	中学生・教員・保護者に本校の教育方針等を伝えることができれば「3」	3			
多様な教育活動に対応した学校事務の推進	事務室	学校の窓口としての適切な対応	外部との接点、情報の出入口としての窓口業務の重要性を認識し、職員室との連携を密にしつつ、より適切で迅速な対応に努める。	適切な来客・電話対応。	挨拶、用件を聞く、担当者への引き継ぎや案内を行うなど標準的な対応がスムーズにできれば「3」	4	4	B	担当者への引継ぎ・連絡など職員室との連携は密に行っていくことができた。前期は情報管理の面で少し不安が残るところがあったが、年度末に向けて適切に管理できるようになった。今後も引き続き情報管理を徹底していきたい。
				職員室との連携と適切な対応。	内部の接点として職員室との連携を意識した、適切で迅速な対応ができれば「3」	4	4		
		適正で迅速な会計処理と予算の効果的執行	法令等を遵守し、適正で迅速な会計処理に努めるとともに、教育活動の理解に基づいた予算の効果的執行に努める。	適正な会計処理。	規則等に則った適正で迅速な会計処理ができれば「3」	4	4	A	支払遅延・不能等の歳出業務に係る重大なミスは発生しなかった。今後とも個々の担当業務を事務室全員で確認チェックできる体制を維持していきたい。
				予算の効果的執行。	教育活動の理解に基づく効果的執行を教員からの要望にきちんと対応できれば「3」	4	4		
施設・設備の安全管理及び整備・充実	・学校生活における生徒の活動・行動についての状況把握と理解に基づき、実態に即した、より効果的な施設・設備の安全管理に努める。 ・教育活動の実態に基づき、より適正な施設・設備の整備に努めるとともに、将来を展望した長期計画の策定により、よりよい教育環境の整備・充実を目指す。	校内巡視による実態把握。	校内巡視による安全確認ができていれば「3」	4	4	A	校内巡視を行い、不具合等があればその都度対応を行った。維持補修計画・大規模整備計画等による短期・長期の計画を今後とも迅速に行っていくたい。		
		突発的な破損・故障への迅速な対応。	長・短期的視点からの整備計画策定の何らかの準備をしていれば「3」	4	4				

評価項目	担当	具体的項目	目標	具体的方策	評価基準	前期	後期	総合	成果と課題後期
力の充実と向上	学校の組織的経営	総合的な学習の時間の充実	キャリア教育を柱とし、3カ年を見通した総合的な学習の時間の運営と内容の研究。	キャリア教育を柱とした総合的な学習の時間の年間計画を立てる。	学習内容のバランス・担当人数のバランス・担当時間などに配慮して年間計画が立てられれば「3」	3	3	B	今年度より発表会は町議会で実施。3年間を見通した総合的な学習の時間となるように継続、改善していきたい。
				総合的な学習の時間を運営する。	円滑に実施できるように、実施計画を調整できれば、「3」	3	3		
				今年度の反省をし、次年度の計画を立てる。	担当者に今年度の反省をしてもらい、それを元に次年度の計画を年度末の職員会議に提案できれば「3」	3	3		
進路指導の充実	進路指導部	進路意識の向上・進路実現	将来の職業意識を持たせ、生徒の能力や適正に応じた進路意識の向上を目指す。	進路講演会の実施。	専門知識に長けた外部講師を招き進路希望に合わせた講演会を実施する。生徒の満足度が高ければ「4」	4	4	A	①進路講演会については、全学年で実施したが生徒たちの将来に役に立つものが多く満足度が高かった。2月は学年閉鎖に伴い中止となり残念であった。②進路検討会については、個に応じた議論ができ進路指導に生かされた。③インターンシップにおいても、生徒たちの職業に対する意識が高められた。
				進路検討会の実施。	進路検討会・学力検討会の結果を基にそれぞれの生徒に適切な進路指導ができれば「4」	4	4		
				インターンシップの実施。	積極的にインターンシップに参加させ社会性や職業観を養う。生徒の満足度が高ければ「4」	4	4		
	進路指導部	学力の向上	計画的・継続的な学習指導を確立し、学力の向上を図る。	補習に積極的に取り組ませる。	怠惰による遅刻・欠席者がいなければ「4」、全生徒に占める遅刻・欠席者が5%増えることに評価を下げる。	4	4	C	①補習の遅刻・欠席者は全体の5%弱であった。体調不良者の場合を除くとほぼ全員が出席できている。②1年は平均偏差値52、60以上の生徒は1名。2年は平均偏差値49.2、60以上の生徒は0名。3年は平均偏差値44.3、60以上の生徒は0名であった。③目標到達人数は1年9名、2年10名、3年5名で全体で57%あった。引き続き指導していきたい。
				模試を有効に利用する。	模試を計画通りに実施し、事前事後の指導を徹底する。1,2年1月対外模試において、全国偏差値平均55以上、60以上2名、3年2学期対外模試において、全国偏差値平均50以上、60以上1名が達成できれば「4」	3	2		
				自主学習力を育てる。	家庭学習や学習会等を通して自主学習力を育てる。学習時間の記録において、1,2年平均180分、3年平均240分を80%の生徒が達成できれば「4」	1	2		
意識の高揚	生徒指導部	基本的な生活習慣を身に付けさせる	集団の秩序を守り、高校生として責任と規律ある生活態度の確立を目指す。	高校生さわやか運動（服装）を推進する。	指導されなくても自ら整える姿勢を養う。毎回の服装頭髪検査で90%以上が合格なら「3」95%以上が合格ならば「4」	3	4	B	① 服装頭髪検査については年間を通して100%ではなかったが、高い合格率を保つことができた。5分前行動もよく守ることができている。② 北松西高校さわやか運動として、年間を通し月初めに生徒会役員・風紀委員を中心にあいさつ運動を展開することができた。10月には挨拶運動だけでなく、自主的に校門・体育館周辺を掃除する姿も見られた。
			高校生さわやか運動（挨拶）を推進する。	風紀委員を中心に挨拶運動を実施。月に1回実施すれば「3」	3	3			
			時間の厳守。	指導されなくても規律ある行動ができるよう育てる。各行事5分前行動ができれば「3」	3	3			
	生徒指導部	交通マナーの遵守を徹底させる	自転車乗車マナーの向上。	自転車整備の徹底。	整備不良については早急に改善させる。年3回の自転車点検で合格が80%以上で「3」	3	3	C	① 駐輪場の使い方は年間を通してよかったため、点検を毎月行う必要性を感じなかった。そのため、3については来年度以降評価基準の内容を変更することを考慮したい。② 自転車の危険な乗り方については、集会等で定期的に話を注意を促すと共に自転車駐輪マナーについて注意を促すポスターの作成・掲示にも取り組んだ。今後は、報告があり次第、その度繰り返し指導していく。
				自転車乗車マナーを指導する。	夜間無灯火・並走・傘差し運転の禁止。マナー指導が各学期に1回実施できれば「3」	2	3		
その他	生徒指導部	学校、保護者、地域社会との連携	保護者、地域社会との連携により、学校と一体になって生徒の健全な育成を目指す。	保護者・地域との連携。	情報を共有し、生徒の健全育成に努める。生活補導会議を年に1回実施し、決定事項を確実に伝達できれば「3」	3	3	B	① 携帯電話やインターネットの使い方について、合格者説明会・育友会総会・長期休暇前の全校集会で注意・指導の場を設けた。生徒の携帯電話所持率は100%ではないが、外部機関や地域の方との連携も強めていく必要があると考える。また、男女交際についての対策を学校・家庭を中心に情報を共有する必要があると考える。
				職員間の連携。	問題行動が起きた場合は素早く情報を共有する場を設定する。機に応じて情報交換ができれば「3」	3	3		
				携帯電話の危険性の啓発。	携帯電話やネットを正しく利用できるように保護者と協力体制を築く。保護者への説明を年に1回できれば「3」	3	3		

評価項目	担当	具体的項目	目標	具体的方策	評価基準	前期	後期	総合	成果と課題後期
その他	生徒会指導部	生徒の自治的 活動の活性化	活気ある学校づくりに、生徒一人ひとりが主体性を持って取り組む精神を養う。	学校行事への積極的参加。	各行事で生徒が主体的に企画・運営に関わる生徒主体となるよう生徒会の活動を支援できれば「3」	3	3	B	① 西高祭や球技大会などさまざまな行事において、生徒一人一人が活躍する場を持てるように必要な手助けを行うことができた。生徒総会においても各学年の生徒達が意見を出し合い、有意義な機会になったと思う。その一方で、少人数であるために生徒一人の仕事量が増えてきているので、企画を再構成する必要性もある。
				各専門委員会活動の活性化。	各委員会で努力目標を設定し、それを達成する。問題点の把握とその改善に向けて努力する姿勢を養うことができれば「3」	3	3		
		部活動の充実 のための支援	体育部・文化部が充実した活動ができるよう、積極的に支援する。	部活動全員加入。心身共に成長できるよう支援する。 部顧問会の実施。情報交換および部活動規定の見直しを行う。	全校生徒が部活動に所属すれば「3」 部顧問会を年に1回実施できれば「3」	3	3	3	B
学校の組織的 経営力の 充実と向上	保健部	生徒及び教職員の健康の保持増進	生徒及び教職員の健康の保持増進を図り、自分の健康に関心を持たせる。	定期健康診断を実施し、治療及び予防に努める。	受診勧告書を発行し、受診後は報告書を提出させる。全員の提出があれば「4」	3	3	B	①事後措置として、対象者へ受診勧告書を冬季休暇前に手渡しで個別に渡したところ、全員ではないが、受診率が多少増えた。来年度も実施していきたい。③保健日より毎月かつ臨時発行できた。また保健室付近に高校保健ニュースを掲示し、情報発信もできた。
				健康診断・保健指導を実施し、適切な指導・援助を行なう。	計画どおり実施できれば「3」、受診後、完治までの指導・支援ができれば「4」	3	3		
				健康の保持増進を図るため、出来るだけ多くの情報提供を行なう。	毎月・臨時の情報提供を行なったら「3」、計画どおり発行出来れば「4」	3	3		
施設の設備の 健康・安全対策	生活・学習環境の安全・衛生・美化活動に努める。	保健部・学校薬剤師による環境安全点検（校舎内外）、安全衛生点検〔年3回〕を実施し、問題点があれば、速やかな対策を講じる。	点検を計画どおり実施したら「3」、問題点に対して速やかな対応策を講じた場合「4」	3	3	B	①安全点検の実施はできた。（3回目は後日実施予定）予算の関係上、今すぐに大きな改善ができるところは少ないため、できることから改善していきたい。②清掃用具の点検等にもっと力を入れて取り組む必要があったと思う。		
			掃除の徹底。	清掃活動を計画どおり実施したら「3」、問題点に対して速やかな対応策を講じた場合「4」	3			3	
			清掃活動を計画どおり実施したら「3」、問題点に対して速やかな対応策を講じた場合「4」	3	3				
学力の充実と 向上	第1学年	学力の充実と進路指導の徹底	家庭学習の習慣化を図る。	平日180分以上、休日300分以上の家庭学習時間を確保する。学習と生活の記録調査・点検を毎週行い、週平均学習時間合計が1500分以上の者が60%いれば「3」とする。	2	3	C	①家庭学習時間は増加したものの、多く学習をする生徒とそうでない生徒の差が大きく開いている。引き続き、粘り強く指導していく必要がある。②個人面談については、予定よりも多くの回数をこなすことができた。まだ進路が定まらず悩んでいる生徒が多いため、引き続き個人面談を重ねていきたい。	
			総合的な学習の時間を活用し、進路に対する意識を高めさせる。	総合的な学習の時間を通して、職業調べや学部調べなどをし、進路に対する意識を高める。予定通り実施すれば「3」とする。	3	3			
			個人面談を充実させる。	個人面談を学期毎に2回以上、家庭訪問を年間1回実施する。予定通り実施すれば「3」とする。	4	4			
基本的な生活習慣の 高揚	第1学年	基本的な生活習慣および落ち着いた生活態度	礼節・容儀の大切さを自覚させ、基本的な生活習慣の定着をはかる。	校則に準ずる容儀への心がけをもたせる。 挨拶を徹底させる。	定期考査毎に実施する服装頭髪検査において、9割の生徒が合格すれば「3」とする。 授業の始業・終業時に100%の生徒が挨拶をする。日常的な場面においても8割以上の生徒が一度立ち止まって、自主的に挨拶できたら「3」とする。	3	3	C	①6月以降は、考査後の服装頭髪検査において、合格率100%を達成し続けることができています。②一人一人爽やかな挨拶をすることができているが、ワンストップ挨拶を全員に徹底させることはなかなかできなかった。③10ヶ月連続出席率100%を達成することができています。今後も、生徒の様子に気を配りながら、行きたくなる学校の雰囲気づくりに努めたい。
			元気に毎日登校する。	年間平均出席率が98%をこえることができたなら「4」とする。	4	4			
			集団の中の「個」としての積極的な行動	学級活動・部活動・生徒会・学校行事などへ積極的・意欲的に参加させ、協調性・自主自律の精神を養う。	学級活動への積極的な参加をうながす。 部活動への積極的な参加をうながす。 学校行事への積極的な参加をうながす。	ホームルーム活動に積極的に参加している。各委員・係活動が日常的に機能していれば「3」とする。 部活動に積極的に参加している。日常的に8割の生徒が活動していれば「3」とする。 学校行事に積極的に参加し、各学年と協力している。協力的な姿勢が見られたら「3」とする。	3		

評価項目	担当	具体的項目	目標	具体的方策	評価基準	前期	後期	総合	成果と課題後期
学力の充実と向上	第2学年	学力の充実と進路指導の徹底	充実した学習指導と進路指導を通して、自己認識を深めさせ、各人のキャリア観を確立させる。	家庭学習の充実	1ヶ月の学習時間の平均が1日200分以上の者が全体の60%以上いれば「3」	2	2	C	①達成できたのは1月時点では7名であり、目標を達成することができなかった。原因は休日の学習時間が伸び悩んだことにある。生徒への意識付けはもちろんだが、課題の量の調整や自主学習方法の指示を各教科の先生方へお願いし、休日に自分で学習できる環境にしていきたい。②外観としてはきれいに保たれていたが、ロッカーや机の中の整理整頓も呼びかけていく必要がある。
				学習環境の整備	掲示物がきれいに貼れており、且つ私物が整理整頓されていれば「3」（例：通常靴を開放してしないか、机が整然とされた状態で授業を受けているか）	3	3		
基本的な生活習慣の高揚	第2学年	基本的な生活習慣および落ち着いた生活態度	中堅学年（中心学年）としての自覚を持たせ、学校生活を再構築させる。	挨拶の励行	授業の始業・終業時に100%の生徒が挨拶をし、且つ日常的な場面においても80%以上の生徒が自ら挨拶をすることができれば「3」	3	3	B	①自ら挨拶できているが、昨年と比べると質が低下したように感じる。いつでも、どこでも、誰とでもを改めて意識させたい。②しっかりと清掃できているが、取りかかりが遅いので、その点については今後も指導を続けていく必要がある。③ほとんどの生徒が全ての検査において合格した。しかし、スリッパ等、チェック項目になっていないところに改善が必要な生徒もおり、さらなる意識の向上にむけて指導していきたい。
				清掃活動へ積極的に取り組ませる	80%以上の生徒が清掃活動に意欲的に取り組めば「3」	3	3		
		集団の中の「個」としての積極的な行動	中堅学年（中心学年）としての自覚を持たせ、学校生活を再構築させる。	学級活動へ積極的に参加させる	各係活動が日常的に機能していれば「3」	3	3	B	①各自が自分の仕事をしっかりとこなすことができたが、活動の改善については教員が主導になっている部分が多いので、生徒に考えさせる機会を持ちたい。②積極的に参加できているが、取りかかりが遅い生徒もいる。メリハリをつけることを指導していく必要がある。③昨年度と比較すると、行事についての話し合いが活発に行われるようになった。
				部活動へ積極的に参加させる	日常的に80%の生徒が部活動に参加していれば「3」	3	3		
進路指導の充実	第2学年	学力の充実と進路指導の徹底	充実した学習指導と進路指導を通して、自己認識を深めさせ、各人のキャリア観を確立させる。	個人面談の充実	個人面談を各学期に2回以上、家庭訪問を1回実施する。予定通り実施できれば「3」	3	3	B	①進路実現に向け、自ら情報収集をしたり教員に相談したりするなど、積極的な姿勢が身についた。面談をきっかけに、保護者と具体的な進路の話をするようになった者も多い。②視野を広げたり、志望進路への知識を深めたりすることができた。進学希望の者が多いが、今後は、その先をより具体的に考えることのできる指導をしていきたい。
				総合的な学習の時間の活用	総合的な学習の時間を通して進路意識を高める。予定通り実施できれば「3」	3	4		
		指導体制の確立	学年の協力体制を確立して指導を行い、教師・生徒間の信頼関係を築きあげる。	定期的に学年会を開く	学年会を月に3回以上開催できれば「3」	3	4	B	①設定されている時間に限らず、必要なときは集まり、意見を交換しあうことができた。②学年会だけでなく、学年朝会においても気になることがあれば報告し合うことができた。これを続けていきたい。③学年全体で方針を共有し、分担して対応にあたることができた。今後も手順を守り、全員で対応にあたっていきたい。
				情報共有を行う	毎学年会で生徒情報交換を行うことができれば「3」	3	3		
学力の充実と向上	第3学年	学習習慣の定着	学力の充実を図り、自らの進路希望の実現に向けて努力させる。	添削指導や補充指導を通して、個々の能力に応じた指導を行う。	個々の能力に応じた添削指導や補充指導を実施できたと、教員の8割以上が判断すれば「3」	3	3	C	①難関大志望者に対する添削指導や個別指導は継続的に行うことができた。内容の良し悪しについては今後、検討の余地がある。②家庭学習時間は、全体的に少なかった。長時間学習する習慣を早くにつけさせないといけなかった。
				家庭学習の習慣化を図る。	8割以上の生徒が、毎日一定時間の家庭学習の習慣がついているなら「3」	2	2		
基本的な生活習慣の高揚	第3学年	基本的な生活習慣および落ち着いた生活態度	基本的な生活習慣を身につけさせ、社会に対応できる人物の育成をめざす。	体調管理を徹底し、欠席を減らす。	出席率が95%以上であれば「3」	3	3	B	①特定の生徒の欠席が多くなっているが、それ以外の生徒の欠席はほとんどなかった。不登校傾向の生徒への対応については、外部の協力を得ながら進めることができたが、まだ改善の余地はあると思う。②服装頭髪検査は合格率ほぼ100%であった。
				社会生活に対応できる容儀の指導を行う。	定期検査毎の服装頭髪検査で、95%以上の生徒が全ての検査項目を守っているなら「3」	3	3		
教育の充実	小中高	学校行事におけるリーダーシップの発揮	最高学年としての自覚を促し、学校行事においてリーダーシップを発揮させる。	学校行事や部活動を通して、リーダーシップの発揮を促す。	行事に積極的に参加し、下級生に対してリーダーシップを発揮できたと、教員の8割以上が判断すれば「3」	3	3	B	①体育祭では、最上級生として下級生を引っ張ることができた。

評価項目	担当	具体的項目	目標	具体的方策	評価基準	前期	後期	総合	成果と課題後期
学力の充実と向上	国語科	学力向上の為の学習指導法の研究	進路実現の為に必要な学力向上の為に、効果的な学習指導法の研究を行い、実践する。	授業計画について検討し、情報交換をする。	教科担当者間で情報交換を行い、学力面での課題を確認し、効果的な指導につなげる。月に2回以上行えた場合「3」月に4回以上行えた場合「4」	4	4	B	情報交換は1年間を通して実施することが出来た。課題の内容や指導内容について各自の方針を尊重しつつ、効果的な指導が行えるように協議した。しかし、授業参観の頻度が目標より低かったため、次年度では改善したい。
				互いに授業を参観し合い、意見交換を行うことで指導力を向上させる。	授業参観を通して自身の授業実践に活かす。1学期に1回以上行えた場合「3」1学期に2回以上行えた場合「4」	3	3		
				個に応じた指導の実践	生徒の志望・学力に応じた指導を行う 具体的な方策を2つ以上実施した場合「3」 具体的な方策を3つ以上実施した場合「4」	3	3		
	国語科	生徒の読書習慣の向上への取り組みの実施	「朝読・トライアルウィーク」の実施等を通して、生徒が自身の世界観を広げ、社会全般に関する教養を得る」為に必要な読書習慣を身に付けさせることを目指す。	朝読・トライアルウィークの実施	朝読トライアルウィークを実施する。学期に1回以上実施できれば「3」学期に1回以上実施でき、生徒へのアンケートで生徒の読書習慣が半分以上の生徒に見られれば「4」	3	2	C	朝読トライアルウィークの実施は、二学期には実施できなかった。第二回は学年末考査終了後を予定している。朝読トライアルウィーク以外にビブリオバトルやブックトークなど読書習慣定着の為の方策は積極的に実施できた。
				授業でのブックトーク等の実施	各学年の授業においてブックトークやビブリオバトルといった読書への意欲向上、読書習慣の定着につながる実践を行う。学期に1回以上実施できれば「3」学期に2回以上実施できれば「4」	3	3		
				語彙力の養成	小テストを通して、読書をする上で必要な生徒の語彙力を向上させる。小テストを週1回以上実施できたら「3」小テストを週2回以上実施できたら「4」	4	4		
	歴史科	歴史的思考力の育成と学習内容の深い理解・確かな定着	歴史について考察するなど生徒の主体的な学習活動を通じて、学習内容の深い理解・確かな定着を図るとともに、自らの言葉で歴史の大きな流れと地域の伝統・文化を表現することができるような指導を行う。	生徒の思考力を養う活動を授業で実施するとともに学習内容の深い定着を図る	模擬試験（日本史B）学校平均偏差値 A：55以上 B：50以上 C：45以上	2	2	C	①模試成績は演習不足が原因と考える。今後、2年生は授業の進度を考え、演習の時間を増やしていく。②論述問題の正答率は目標を達成できたものの、後期のみであれば50%を下回っている。授業で友人同士で説明する活動を増やすなど、普段の取組を重視していく。③後期の授業では主に江戸時代の出島、小値賀の鮑漁について明治時代の産業遺産、孫文を取り上げることができた。
				歴史的思考力を養うために試験問題における論述問題の充実	定期試験における論述問題正答率 A：6割以上 B：5割以上 C：4割以上	3	4		
				地域の伝統・文化に関する深い理解を養う	小値賀・長崎県に関する事項を授業に取り上げる。A：5回以上 B：4回以上 C：3回以上	4	4		
	公民科	批判的思考力・公民的資質の育成	現代社会の諸課題を自らの問題として捉えるための概念・理論を理解するとともに、資料を読み解き、情報を収集し自らの考えを述べる能力を育成する	NIEの積極的な実践	新聞記事を用いた授業の実践 A：年4回 B：年3回 C：年2回	2	3	B	①NIEについては2学年を中心に取り組みを進めた。次年度は小中高一貫教育の取り組みとしてもっと活発に行っていく。②課題レポートは評価として1回しかしていなかったが、授業において労働問題に関する調べ学習、パワーポイントを使用して発表という活動を実施した。授業における幅広い取り組み・定期試験以外の評価を次年度は行っていきたい。
				課題レポートの作成	長期休業中に経済問題に関わるレポート作成を課題として取り組ませる（5段階評価） A：評価平均4以上 B：評価平均3以上 C：評価平均2以上	3	3		
	数学科	基礎基本の徹底および応用力の育成	家庭学習の充実	生徒の実情に合った課題を配布し、家庭学習の習慣をつける。	9割の生徒が取り組んだら、「3」	3	3	B	①生徒の実情に応じた課題を作成するなど工夫し、生徒の学力向上につながった。②大学入試問題や模試の過去問を課題として、生徒のモチベーションアップにつながった。
就職試験や入試問題を家庭学習課題にして、学習の動機付けにする。				9割の生徒が取り組んだら、「3」	3	3			
数学科	基本的な計算技術の習得と習熟	四則演算、整式計算、様々な方程式を速く、正確に解けるようになる。	全校統一の計算力テストを月に1回実施する。	全校生徒の平均点が70点を超えれば「3」	3	4	B	①計算力テストを年間で7回行った。生徒のモチベーションも高く、平均90点以上が2回と、点数も少しずつ伸びた。②テスト前の補充指導や添削指導を行うなど、生徒の実情に応じた指導を行った。	
			生徒の実情に合った問題をそれぞれ用意し、授業や補習、課題等を利用して解かせる。	9割の生徒が正解できたら、「3」	3	3			

評価項目	担当	具体的項目	目標	具体的方策	評価基準	前期	後期	総合	成果と課題後期
学力の充実と向上	理科	進路実現を図るための学力を身につけさせるとともに、学習指導法の工夫と改善に努める	生徒の学習状況や理解度を把握し、進路実現のために必要な学力を身につけさせるための授業の工夫と課題の活用を研究する。	適切な課題を与える。	学習習慣を身につけさせるとともに、学習内容の定着と進路に応じた実践力を育成する。また、提出された課題の内容を元に、理解度を把握し指導に活かす。課題消化率および理解度が9割以上なら「4」 課題消化率および理解度が7割以上なら「3」	3	3	B	学習習慣を身につけさせるために復習プリントを実施してきた。その効果があり調査で一部の生徒を除き目標点に達することができた。次年度も続けていく。
				実験観察を積極的に行う。	効果的に実験を実施し、生徒の興味・関心を喚起し、学習内容の理解を高める。教科全体平均で半期に3回以上実施できたら「4」 2回以上実施できたら「3」	3	3		
小中高一貫教育の充実	理科	小中高一貫教育の内容の工夫を図り、その成果を検証し、改善に努める	小中高12年間を見通した系統的・継続的な教育を推進する。	小中高の職員が協議し系統的な理科教育の流れを確立する。	小中高12年間の理科教育で実施する実験リストを作成し、情報を共有する。(今年度は化学) 実験リストの実験について研究協議できたら「4」 実験リストを作成し共有できたら「3」	2	2	C	実験のリスト作成の計画で協議のみに終わり、作成に至らなかった。年度初めに作成し教科部会で検討し小中高での協議をすべきであった。
				公開授業の実施。	小中高の教員で授業内容の協議を行い、公開(研究)授業後に授業研究を行う。2人とも公開(研究)授業を実施したら「4」 1人が公開(研究)授業を実施したら「3」	3	4		
学力の充実と向上	保健体育科	授業や体育的行事において、公正、協力、責任、参画などに対する意欲を高める。	集団行動を定着させ、各領域で意欲的な活動を行う。	生徒が積極的に集団行動に取り組む。	体育委員を中心に生徒が主体的に活動し、集団行動の基本が定着しているか。	3	4	B	① 中高合同体育祭では、それぞれの生徒が意欲的に責任をもって取り組み、集団のまとまりが見られた。② 生涯スポーツを見通した授業作りにおいては、生徒一人一人は意欲的に活動ができているが、グループ学習やチーム練習を主体的に行える工夫が必要である。
				生涯スポーツを見通した授業づくり。	各領域において基礎基本を身につけ、グループで計画的に練習に取り組んでいるか。	3	3		
				中高合同体育祭においてリーダーとしての態度を育む。	中学生のよきリーダーとして、合同練習へ積極的に参加しているか。	3	4		
	体育科	新体力テスト等を活用し、基礎体力の向上を目指す。	新体力テストを活用し自己の体力を把握し、日々の授業において基礎運動能力を高める。	新体力テストの実施と結果の活用。	新体力テストを5月までに実施し、結果の分析をさせる。	3	4	B	① 授業の初めのサーキット運動は継続して実施し定着できた。② 長座体前屈の定期的な測定は、途中からストレッチテスト(7種目)を学期に1回実施するように変更をした。今後もう少し生徒の意識が上がる方法の工夫が必要である。
				柔軟性の定期測定	長座体前屈測定又はストレッチテストを2ヶ月に一回実施する。	3	3		
				個々の状況に応じた体力の向上。	授業初め、サーキット運動を継続して実施する。	3	4		
	芸術科	基礎学力の定着	音楽の基礎知識・技能の定着と読譜力の向上。	音楽の基礎知識・技能の復習を行う。	楽典の確認・復習テストまたは実技のテストを学期に2度以上行う。一度のテスト等で70%以上の得点を得られれば「3」	2	3	C	①実技試験の得点は70%を超えることができた。楽典については70%を下回る生徒が数名出たが、継続指導により確実に力はつけることができたと思う。②リズムのテストや階名書きは合格までの時間短縮が見られ、音楽の技能の定着と読譜力の向上は達成されたと思う。
リズムのテストや階名書きを計画的に設定する。				リズムのテストや階名書きを1週間に1度以上行う。時間内に70%以上の合格なら「3」	3	3			
共同的な学びの現実		学び合う関係、学びの場として、お互いに教えあったり批評することができる雰囲気を作る。	少人数・小集団での活動の実践。	少人数・小集団による活動を取り入れ、生徒同士の学び合う関りを学期に2度以上実践できれば「3」	3	3	C	①生徒同士の良好な関係が学び合いの場で活かされ、学力の充実と向上につながったと思う。時折、生徒同士がなれ合いの関係になる場面があったので、指導の工夫・改善が必要である。②音楽ⅠやⅡにおいて、グループ(演奏)発表や個人(演奏)発表を取り入れることで「聴き合う場」の設定ができた。	
			「聴き合う」場の設定。	発表演奏などの機会を設定し、相互に聴き合い、相互評価を学期に2度以上実施できれば「3」	2	3			
生徒の主体的音楽表現力の育成	生徒に音楽芸術を身近に感じさせ、主体的・創造的な表現能力の育成を目指す。	様々な種類の音楽に親しむ鑑賞の計画。	鑑賞と表現の関連をもたせた授業を行うことができれば「3」	学期に2回以上、個別または小集団での実技試験を実施することができたら「3」	2	3	C	①伝統芸能芸術鑑賞会や修学旅行前などに事前学習として学習や鑑賞ができたので良かった。②個別の実技試験、小集団の演奏と計画的に実施することができた。	
			個別または小集団での実技試験の実施。		3	3			

評価項目	担当	具体的項目	目標	具体的方策	評価基準	前期	後期	総合	成果と課題後期				
学力の充実と向上	英語科	学習のつまづきを究明し、その対策を講じるとともに、学習指導方法の工夫と改善に努める。	授業力向上と教科指導の充実。生徒一人ひとりが英語を使う場面を増やす。	生徒が英語を使って話す機会が増加。	CAN-DOリストにある学年ごとの目標に照らし合わせて、全てのクラスで定期的にスピーキング活動（スピーチ、インタビュー、リテリングなど）を取り入れる。年間2回以上パフォーマンステストを実施できれば「4」		4	B	①インタビューテストは計画通り10月と12月に実施し、生徒のスピーキング力向上に対する意識を高めた。単発で行っている状態なので、授業との関連付けが課題である。②ALTとのTT授業では、個人差はあるものの、生徒たちは積極的に発言していた。③10月実施の英語検定において、面接練習を十分に行い、1次試験合格者を全員合格させることができた。				
				ALTとのTTにより英語に触れあう機会を増やす。	TT授業を週1回以上実施し、かつ生徒の授業中の発言が授業の3分の1以上あれば「3」。	3	3						
				英語検定2次試験合格を目指す。	英語検定1次試験合格者に対して、昼休み等を利用して、個別に面接試験対策を行う。1人あたり3回以上練習を行うことができれば「3」。全員合格することができれば「4」。		4						
		基礎学力の定着	英語に関する基本的な知識の習得。	予習・復習の徹底。 授業開始前に予習や復習の確認を行う。9割の生徒が予習や復習を行ってれば「4」	4	4	B			①予習・復習・訂正ノートの取り組みはほぼ良好で、未提出のままの生徒はいなかった。②小テストの取り組み、やり直しの提出状況も良好である。小テストで培った基礎力を模擬試験などで測られる表現力や読解力などの応用力にどのように繋げていくかが大きな課題である。			
	家庭生活を営むために必要な能力を身につける	生活に必要な知識と技術を習得させ、生活を創造する能力と実践的態度を育てる。	保育実習の実践	乳幼児ふれあい体感を通して、男女協力して家庭や地域の生活を創造するための知識と技術を習得させる。効果的な指導・体験実習ができれば「4」	4			B	①被服製作では作品を完成させ展示することができた。②調理実習では生徒が献立メニューから考えるような調理実習を年に3回程度実施することができた。				
			実践的・体験的な学習活動と問題解決的な学習の充実	文化祭での作品展示を目標に作品製作を行う。最後まで作品を完成させることができれば「3」	3	3							
			調理の工夫と実践	調理実習では年間10回以上を目標とする。安全に配慮し、効果的な調理実習ができれば「3」	3	3							
	小中高一貫教育の充実	家庭科	郷土学習を進め、郷土を愛する心を育てる	地域保護者との連携を深め、郷土について学習する機会を作ることにより、郷土についての知識と愛着を深める。	地場産物を使った調理実習を行う。 小値賀の特産品や農作物を知る。	1回の調理実習で、小値賀産の食材を2種類以上使用できれば「3」 調べ学習を行い、小値賀の特産品や農作物についてまとめることができれば「3」	3	3	B	①生徒が献立から考えて食材を持ってくる上で、家で作った野菜などを収穫して持つてくることで小値賀の食材を使用することができた。 ②郷土料理教室で郷土料理を教わり完成をさせることができた。			
				小中高間での連携の活発化	共同の授業研究を行い、小中高の連携を図って段階的な学習内容や行事を検討する。	共同の授業研究	1時間以上の授業研究会を3回開催することができたなら「3」	3			3	B	①研究授業を行う上で授業研究会を多く開くことができた。②教材の蓄積はできたが、分かりやすく整理されていないので、分かりやすく整理することが今後の課題である。
						教材・授業案の蓄積、共有化	年間を通して、新たに試みられた授業内容の授業案化、データ化、教材の蓄積ができれば「3」	3			3		